



職業体験で急成長を実感 “新しい気づき”の連続！

昨年末の12月14日、沖縄県立読谷高等学校（沖縄県中頭郡読谷村）の2年生の希望者を対象に、日本マクドナルド株式会社（本社東京・新宿区）が提供するキャリア支援プログラムに関する「アドバンス・インターンシップ事後報告会」が実施された。

生徒は12月10～13日までの4日間をマクドナルド社の店舗でインターンシップ職業体験を行い、プログラムの最終日に、学んだことや職場体験で感じたことなどを振り返った。

事後報告会では、参加前と参加後で、自身の考えや能力にどのような変化が表れたかを各項目にわたって分析し、体験した業務との



変化のつながりを生徒同士がディスカッション形式で導き出し、発表を行った。

自己評価の確認では、自己評価数値が下がる結果も示され、戸惑う様子を見せる場面も。しかし、高校生活を送る中での自身の価値観や評価というものが、環境の変化によるところが大きいことに気がつくなど、新しい自己発見につながった生徒も少なくなかったようだ。また、各項目の評価数値が大きく上がった結果を見て、4日間という短い期間であっても、さまざまな力が身についたことに驚いている様子も見受けられた。参加した生徒たちは「インターンシップを通して社会について学ぶことができた」「『経験する』→『経験か

ら学ぶ』→『経験を活かす』というサイクルをしっかりと勉強することができました。今回学んだことを今後活かす、さらに学んでいきたい」などと、異口同音に手応えを語る。

最後のまとめでは、チームで働く力が、“One For all, All For one（一人はみんなのために、みんなは一人のために）”という構えが大切であることが導き出された。聴講した関係者からも、「生徒から学ぶことが少なくなかった」など、高校生成長により関心を引きつけられた様子が見受けられた。



4日間の職業体験で学んだ内容を、全員で話し合いながら模造紙やポスターにまとめて発表を行った



日本文理大学 附属高等学校 地域を支える「人財育成」

「産学一致」を建学の精神とするのが日本文理大学附属高等学校（大分県佐伯市、田中英明校長）だ。同校の特色である「キャリア教育」はその建学の精神を象徴するものであり、これまで①生徒の視野を広げる活動にする②学校と地域をつなげ地域力を高める活動にする③生徒が感謝の気持ちを抱ける活動にする——という三つの指針を掲げつつ産業の視点を取り入れた学習を展開してきた。

例えば、ニュース報道でしばしば耳にする「慢性的な人手不足」が、基幹産業を活かしたインターンシップや出前授業などを展開するなかで、地元・大分も例外ではないことに生徒が容易に気づくというように、これら三つの指針を下敷きにした「キャリア教育」のメリットは多様だ。とりわけ各産業の良い点だけでは



なく問題点も学べるのが最大の利点だろう。

同校は、普通・商業・情報技術・機械の4学科を擁し、平成30年度の卒業予定者168人の動向は進学約67%、就職率は約33%。就職者の動向を分析すると県内約84%、県外は約16%で、多数の生徒が地元就職を果たしている。

佐伯市は九州最大面積を持つ地方自治体だが、人口減少に伴う人材不足は否めず、基幹産業である「造船業」「水産業」も外国人材を活用して事業展開している企業が少なくない。それゆえ、若者の地元就職志向は地域に歓迎されている。地域に根ざしたビジョンを卒業生が持ち込むことで、同校が目指す建学の精神の具現化が成し遂げられるのではないかと。そうした大きな期待感を抱かせる同校の実践的な活動に今後も注視したい。



株式会社海星ムサシ（本社・福岡市）は、福岡県を中心に、北関東までの広域に53店舗を構える全国的にも珍しい、精肉と鮮魚部門を併せ持つ専門店だ。

人事・採用担当者は、自身が着任した5年前に比べて会社として高校新卒者採用に力を入れていると語

る。それまでは、大学新卒者の採用に注力していたが、近年では高校新卒者に

高卒新卒者採用にも注力 — 株式会社海星ムサシ

も注目しているという。進路情報企業の「就職懇談会」や「進路相談会」などに参

加することで、高等学校の教員と交流する機会が増えたのもその理由の一つだ。

一度、顔を合わせたことによって、後日の高校訪問の際に会話が弾むのだと明かす。教員や高校生と直接面談できる機会を増やし、つながりを広げていけることがメリットとなっている。



「起業家育成プログラム」を実施 起業家精神を高校在籍中から！

福岡市立福岡女子高等学校（福岡市）は昨年の11月12日、中小企業庁が主導する「学びと社会の連携促進事業（起業家教育）」における『起業家育成プログラム』を実施した。これは、

若年層に起業家マインドを身につけさせ、将来の創業者の発掘に取り組むとともに、全国的な創業機運の醸成を図ることを目的とするもの。日本全国で6高校、九州では同校のみで実施さ

れているプログラムだ。

プログラムは全14日間。「メンター」として外部講師を招き講義を行う。今年度は2年生・19人の生徒が参加した。高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力の育成を目標とし、課題の発見と解決に向けての主体的・協働的に学ぶ学習の充実、また地域社会とのつながりを持つことで、生徒の視線を世界に広げ、グロ

ーバルに活躍できる人材育成にもつながるものとしての期待が込められている。

具体的には、①社会のために何かをする社会貢献②地域社会とのつながりでの地域貢献③教科の勉強の出来不出来と関係なく、自分の得意とすることを見つける自己肯定感——を大切にすると三つのコンセプトが掲げられた。生徒に無謀な起業を促すのではなく、ただお金儲けを目的とすることでもない。

大切なのは、生徒一人ひとりが「人を幸せにする」という考え方を持つこととした。社会貢献に取り組んでいる卒業生や企業を探

したり生徒が何らかの形で地域社会に貢献できるように活動を進めたりしたが、グループや企画を競わせたりする形でも構わなかったのだという。

「メンターから厳しい評価を受けることで、考えることに対して以前に比べてタフになった」「考えていることを形にしていく作業が難しそうだった」「パワーポイントが使えるようになった」「自己肯定感の高まりが見受けられた」など、外部から一定の評価を受けた。来る2月13日には、東京で発表が控えており、次年度以降も取り組みたいと意欲をにじませる。

起業家育成プログラムを実施する高等学校および自治体

〈高等学校〉

- ・青森県立青森商業高等学校（青森県）
- ・私立金沢高等学校（石川県）
- ・長野県小諸商業高等学校（長野県）
- ・京都府立須知高等学校（京都府）
- ・香川県立高松工芸高等学校（香川県）

・福岡市立福岡女子高等学校（福岡県）

〈自治体〉

- ・北海道夕張市
- ・宮城県仙台市
- ・埼玉県所沢市
- ・福岡県北九州市